



学校が元気に!地域が元気に!

令和6年度 コミュニティ・スクールだより No.5

かほく市立高松中学校
校長 塚田 秀和
学校 CN 沖野 ゆかり
コーディネーター

全学年 教育支援プログラム「南極クラス」講演会

11月15日(金)に、北陸ミサワホームより坂下 大輔さんにお越しいただき「南極クラス」講演会が実施されました。「南極クラス」とは、南極観測隊として参加された方が講師となり、“未知の世界”である南極での活動を紹介して下さるプログラムです。

今回は、南極観測隊の設営部門として、観測棟の建設や改修を担当された坂下さんより、南極での活動について教えていただきました。坂下さんは、これまで4度に渡り、南極で活躍されている方です。



南極の厳しい環境の中でも、仲間で支え合いながら楽しく生活しているようすや、幻想的なオーロラの風景は、とても神秘的で息をのむほどの美しさでした。

また、2万年前の南極の氷も披露して下さり、その氷が解ける音も聞かせていただきました。その氷の層からは、過去の気象状況や生物などの歴史についても知ることができそうです。



坂下さんはご自身の南極での経験から、「共同の目標を持つことで強いチームワークが生まれる」ことや、「幸せになるには、チャレンジが必要。まずは、やってみることが大事。その動きこそが学びになる」と、熱く語っておられました。坂下さん、たくさんの楽しいお話ありがとうございました。

<南極で着用していた防寒具>



2年生 「思春期講座」

11月21日(木)に、星の子助産院の坂谷 理恵子さんを講師にお迎えし、2年生を対象に「思春期講座」が開催されました。

まず、最初に「生」と「性」の違いについてお話をされ、「生」は、「生命、誕生、人生、一生など命や生きることに関する言葉が多く、その一方で心のついた性は、生まれながらの心のはたらきに関する言葉が多いとお話しされました。「性」とは未来の命をつなぐための性でもあり、命と関連付けて考えることが必要とおっしゃられていました。



講座の後半では、妊婦体験や胎児から出産に至るまでの疑似体験、人形の赤ちゃんを抱っこする体験もしました。

最後に、「自分の心を理解すること、また、自分だけでなく他の人の命も大切にすること、その命をつなぐために最善を尽くしてください。」とメッセージをいただきました。



<生徒の感想より一部抜粋>

- ・今の自分があるということは、自分の親や祖父、祖母などのもっとたくさんの人が命をつないでくれたからだと分かりました。
- ・妊娠や出産では、お母さんはとても大変な思いをして自分を産んでくれたんだとわかったし、感謝したいと思いました。
- ・妊婦さんの大変さや、お母さんのお腹の中がどうなっているかを知ることができました。自分は男なので女性の本当の大変さは感じる事ができないけれど、知識を身に付けて理解することはできると思うので、自分の体や大切な人の体を大切に守っていきたいです。
- ・生と性や愛について、しっかりと学ぶことができました。これまでは、恥ずかしいことだとか、あまり知りたくないといった気持ちの方が大きかったけれど、その気持ちはとても大切だし、これからも大切にしていかなければいけないと思いました。
- ・「命」の大切さや、一人一人の個人の尊重について改めて学ぶことができよかったです。
性や気持ちの感じ方もそれぞれ違うことがわかったので、相手の気持ちを考えた行動をしていくことが大切だと思いました。
そして、思いやりの心を大事にしていきたいです。

